

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
音楽 I	音楽 I	1	A～F	2	選択必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	高野瀬 一
授業形態	実技、講義、演習
教科書	MOUSA I (教育芸術社)
使用教材等	プリント

科目の目標・内容等

学習目標	歌唱・器楽・創作・鑑賞の各活動を通して、生活や社会の中の音楽に幅広く関わる力を伸ばす
学習における留意点	幅広い種類の音楽に触れる。知識・技能をバランスよく伸ばす授業を工夫する
予習・復習	実技テスト前、発表前には十分な準備をすること
評価方法	実技テスト・課題テスト・発表・ワークシート・平常点

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	①発声の知識と技能について ・メッセージソング ・カンツォネッタ ②リズムアンサンブルを楽しむ ・プリマスロック ③楽器の音色を味わう	①無理のない発声でのびのびと歌うことを目指す ②他者と協力してアンサンブルを作り上げながら、強弱やテンポやテクスチャの音楽的要素について感じ取り、表現に生かす力を伸ばす ③楽器ごとの音色の違いを聞き取り、その特徴を言い表す力を伸ばす	①発声上のよりよい響きを探求しながら歌唱活動を楽しむことができたか ②他者と協力してアンサンブルを作ろうとしたか。強弱やテンポ、テクスチャといった音楽的要素を感じ取ったか ③感じ取った楽器ごとの音色の違いを他者に伝わる言葉にして表現することができるか
2	①ギターアンサンブルに挑戦 ・第三の男 ②野ばらを歌いくらべよう ③オノマトペを使った創作 ④沖縄の音楽に触れよう	①ギターの響きを味わいながら、パートの役割を意識してアンサンブルする ②2人の作曲家の野ばらを歌い比べ、その特徴の違いを感じ取り、表現に生かす ③楽器の音色を言葉で表し、その言葉を用いてグループごとにテーマを決めて楽曲を創作することで、社会や生活と音楽との関わりについて考える力を伸ばす	①豊かな響きで楽器を鳴らし、パートごとの特性を生かして演奏しているか ②楽曲ごとに特徴の違いを感じ取ることができているか、また感じ取った特徴を自身の歌唱表現に生かしているか ③他者と協働しながら音楽を創作しているか、また、テーマにふさわしい表現方法を思考し判断し表現しているか。
3	①ヴォイスアンサンブルに挑戦 ②雅楽について学ぼう ③世界の伝統音楽	①グループごとにヴォイスアンサンブルに取り組み、形態の違いによる表現のあり方について感じ取る ②雅楽について学び、知識と技能を深める ③世界の伝統音楽について学び、知識と技能を深める	①形態の違いによる表現のあり方を考え、歌唱に生かしている ②雅楽における知識と口唱歌の技能を身につけることを通して、雅楽に関する思考力・判断力・表現力を高めることができたか ③世界の伝統音楽についての知識を身に付けることができたか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
音楽Ⅱ	音楽Ⅱ	2	A～F	2	選択必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	高野瀬 一
授業形態	実技、講義、演習
教科書	MOUSAⅡ(教育芸術社)
使用教材等	プリント

科目の目標・内容等

学習目標	歌唱・器楽・創作・鑑賞の各活動を通して、 生活や社会の中の音楽に主体的に関わる力を伸ばす
学習における 留意点	幅広い種類の音楽に触れる。知識・技能を伸ばす授業を工夫する
予習・復習	実技テスト前、発表前には十分な準備をすること
評価方法	実技テスト・課題テスト・発表・ワークシート・平常点

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	①発声の知識と技能について ・英語のポップス曲 ・フニクリフニクラ ②弾き語りに挑戦 ・カントリーロード ③ソルフェージュ	①外国語の歌を無理のない発声 でのびのびと歌うことを目指す ②コードについて理解し、ストロークの技能を身に付けることを目的とする ③読譜の知識と技能を高める	①言葉の語感を生かしながらよりよい響きを探求することができたか ②コードについての知識を身に付け、ストロークを用いてギターの演奏を行えるようにする ③読譜の知識と技能が十分に身についたか
2	①クラシックギターに挑戦 ・夏の思い出 ②日本の歌を味わう ・ゆりかご 他 ③ミュージカルナンバーを歌う ・夢破れて 他 ④ハンドベルでアンサンブル	①ギターの響きを味わいながら、旋律を表情豊かに奏でる ②日本語の歌詞の内容と語感を生かして歌う ③ミュージカルナンバーを場面を想像しながら表現豊かに歌う ④他者と協働してハンドベルアンサンブルを完成させる過程を通してハーモニーの美しさを表現する	①豊かな響きで楽器を鳴らし、旋律の特性を生かして表現しているか ②歌詞の内容や語感を生かして音楽の要素を工夫して表現しているか ③楽曲のもつ背景や曲想にふさわしい歌唱を工夫して表現しているか ④他者と協働してハンドベルによるアンサンブルを行い、ハーモニーを美しく響かすことができています
3	①アルペジオに挑戦 ②ユーキャンストップザビート ③ミュージカル映画の鑑賞	①ギターのアルペジオ奏法を身に付ける ②テンポの速い英語の楽曲の歌唱を通してリズムやテンポの要素を生かした表現を磨く ③ミュージカル映画の鑑賞を通して総合芸術に対する知識、理解を深める	①アルペジオ奏法について学ぶことで、奏法による表現の違いについて理解することができたか ②テンポやリズムの要素を生かした表現の技能を身に付けているか ③総合芸術に対する知識、理解を深めることができたか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
音楽Ⅲ	音楽Ⅲ	3	A～F	2	選択必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	高野瀬 一
授業形態	実技、講義、演習
教科書	Joy of Music(教育芸術社)
使用教材等	プリント

科目の目標・内容等

学習目標	歌唱・器楽・創作・鑑賞の各活動を通して、音楽的な知識、技能を伸ばす
学習における留意点	個人の進路に合わせて知識・技能を伸ばす授業を工夫する
予習・復習	実技テスト前、発表前には十分な準備をすること
評価方法	実技テスト・課題テスト・発表・ワークシート・平常点

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	①楽典 ②ソルフェージュ ③実技演習	①楽典に関する諸知識を身に付ける ②ソルフェージュ能力を高める ③各種実技の能力を高める	①楽典に関する知識を身に付けたか ②高度なソルフェージュ能力を有しているか ③実技の技能が身についているか
2	①音楽史 ②ヴォイスアンサンブル ③実技発表	①音楽史に関する知識を身に付ける ②ソルフェージュ能力を生かしてヴォイスアンサンブルを行う ③実技発表を行い進路活動に備える	①音楽史に関する知識を身に付けたか ②ソルフェージュの能力を生かしてアンサンブルを行うことができたか ③実技の能力が身についているか
3	①進路準備	①進路活動に関する準備を行う	①進路活動に向けて知識、技能は十分に見についているか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
保育音楽	音楽 I	3	A～F	2	選択必修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	高野瀬 一
授業形態	実技、講義、演習
教科書	MOUSA I (教育芸術社)
使用教材等	プリント

科目の目標・内容等

学習目標	ピアノ演奏の知識、技能を伸ばす
学習における 留意点	個人の進路に合わせて知識・技能を伸ばす授業を工夫する
予習・復習	実技テスト前、発表前には十分な準備をすること
評価方法	実技テスト・課題テスト・発表・ワークシート・平常点

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	①ピアノの基礎 I ②ピアノアンサンブル I	①ピアノに関する技能を高める ②アンサンブルを通して音楽の要素を生かした表現について学ぶ	①技能を身に付けることができたか ②音楽の要素を理解し、表現することはできているか
2	①ピアノの基礎 II ②ピアノアンサンブル II	①ピアノに関する技能を高める ②アンサンブルを通して音楽の要素を生かした表現について学ぶ	①技能を身に付けることができたか ②音楽の要素を理解し、表現することはできているか
3	①ピアノの基礎 II ②ピアノアンサンブル II	①ピアノに関する技能を高める ②アンサンブルを通して音楽の要素を生かした表現について学ぶ	①技能を身に付けることができたか ②音楽の要素を理解し、表現することはできているか

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
書道Ⅱ	書道Ⅱ	2年	ABEF	2年	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	山口幾世子
授業形態	実技
教科書	書Ⅱ 光村図書
使用教材等	書道用具一式・表具用材・スクラッチ皿

科目の目標・内容等

学習目標	書の文化や古典作品について理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。
学習における留意点	基礎的技能を習得し、意図に基づいた表現力をつける。
予習・復習	制作工程プリント
評価方法	学習目標を理解し意欲的に作品制作に取り組んだか。 作品完成度。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	『篆書』『隸書』の学習	書体の概形を理解し、水平な横画と起筆の筆使いを学ぶ。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。
2	『草書』の学習から『五字体』の創作へ	草書の特徴と用筆法(元字を把握したうえで原則をふまえずして書く。草書の柔らかさ緩急を意識しながら臨書する。)五字体から好きな書体を選びスクラッチ皿に個性豊かな表現を見出す。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。
3	『漢字仮名交じりの書』の学習	漢字と仮名の調和を探求し、自己を見つめ言葉を吟味する。意図に基づく最適な表現方法を模索する。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術 I	美術 I	1	A・B・C・D・E・F	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	齊藤 有里恵
授業形態	実技
教科書	美術1(光村図書)
使用教材等	課題に応じたプリント配布、画用紙、鉛筆、練り消しゴム、 アキーラガッシュ水彩画セット、ペーパーウェイト(雲南石)、電動卓上糸鋸盤

科目の目標・内容等

学習目標	創作をする楽しみを知る。課題に応じた構想・発想力、技術を身につけ、表現方法を獲得
学習における 留意点	いずれの課題に於いても、観察力、発想力、想像力、技術力、表現力の向上を目指す。作品と向き合う時の集中力や創作意欲を持続させることも大切である。
予習・復習	創作に必要な資料を用意する。日常生活の中でアイディアのヒントを得る。
評価方法	各課題の作品で評価する。教材・用具・資料の準備、出席率、授業態度も加味する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	●鉛筆デッサン「私の手」 ●色彩の基礎「平面構成」	●鉛筆デッサンの基礎を学ぶ。 鉛筆の硬度の違いや、練り消しゴムの扱い方を学ぶ。モチーフである自分の手をよく観察して、実物大でデッサンする。光の方向、陰影の表現方法などの技術力の向上と観察眼を養う。 ●色彩の基礎を学び、応用として平面構成を制作する。身の回りにあるものが、いかに色彩の工夫をされているかを学び、今後の制作へ	・提出された作品 ・教材、用具、資料の準備状況 ・授業態度
2	●木彫「テープカッター」 ●水彩・コラージュ 「モダンテクニックの表現」	●彫刻刀の名称と彫りの基礎を学び、実用品であるテープカッターのデザインを考える。 卓上電動糸鋸盤で形を切り出し、彫刻刀でデザインにふさわしい彫りの表現をする。仕上げには、アクリル絵の具で着色する。 実用的にデザインする力、卓上電動糸鋸盤や彫刻刀を使いこなす技術力を養う。 ●モダンテクニックを実践により学び、各自で決めたテーマに沿って、コラージュで表現する。	・提出された作品 ・教材、用具、資料の準備状況 ・授業態度
3	石彫「ペーパーウェイト」	石彫の基礎を学び、7×7×2cmサイズの雲南石で、立体感のあるペーパーウェイトに仕上げる。立体を意識したデザインと、それをどのように彫ったり磨いたりして仕上げるかという計画性も養う。	・提出された作品 ・教材、用具、資料の準備状況 ・授業態度

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術Ⅱ	美術Ⅱ	2	A B C D E F	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	怡田千枝 ・ 松木茂
授業形態	実技
教科書	美術Ⅱ 光村図書
使用教材等	水彩絵の具 アクリル絵の具などの描画材。木や土などの素材。

科目の目標・内容等

学習目標	多様な表現の良さや美しさなどを味わい、 制作工程を考え表現を工夫する力を育てる。
学習における 留意点	学習意欲を喚起し、学習目的意識を育てることができるようにする。
予習・復習	プリント(ワークシート)
評価方法	ワークシート。作品完成度。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	「風景画」 「木彫箱」	水彩画特有のぼかしやにじみ、色調を活かして表現する。重色、混色にこだわりを持ち、色の広がりを楽しむことで水彩画を探究し表現につなげる。 実用性を考えてデザインする。木の素材に触れ、工具の使い方を学習する。細部までこだわりを持ち、美しく仕上げる。	制作に意欲的に取り組んでいる。 よく観察し、細部までこだわりを持って表現している。 ワークシート。 表現のための技術の習熟度。 作品完成度。
2	「陶芸」 「版画」	カップを粘土で制作する。実用性を考えてデザインをする。発想や構想の能力を高める。完成のイメージを湧かせて、細部までこだわりを持たせる。お互いの作品を鑑賞し良さを味わう。 四季をテーマに絵葉書を制作。図案を考え凸版をつくる。陽刻法と陰刻法について理解する。	独自の構想を練り展開している。 制作に意欲的に取り組んでいる。 ワークシート。 表現のための技術の習熟度。 作品完成度。
3	「絵画の再構成」	1学期の風景画の再構成。抽象化や再構成の手法を用いて構想し表現につなげる。デカルコマニー、コラージュ、フロッターージュなどの技法を学ぶ。画面全体の統一感を意識しながら、完成度を上げる。お互いの作品を鑑賞し良さを味わう。	細部までこだわりを持って表現している。 制作に意欲的に取り組んでいる。 ワークシート。 作品完成度。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術Ⅲ	美術Ⅲ	3	ABCEF	2	選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	松木 茂
授業形態	実技
教科書	美術Ⅲ(光村図書)
使用教材等	

科目の目標・内容等

学習目標	創作する楽しみを知る 技術を身につけ自由な発想で表現方法を獲得する
学習における留意点	自由な発想で個性ある作品を制作する
予習・復習	制作に必要な資料の用意
評価方法	実技作品

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	絵画 デッサン 絵画 油彩	構図 陰影 立体感 質感 の理 解と表現 色彩と配色 油 彩の使用方法的理解	仕上がりと完成度 構図、空間、色 彩、表現方法を総合的にみる
2	彫刻 七宝焼き 着彩	彫刻 立体的な空間把握と表現 七宝 七宝の技法習得 着彩 構図 質感空間の把握と 表現	アイデアから表現までのプロセスと 完成度 仕上がり
3	着彩	絵の具による仕上げ	アイデアから表現までのプロセスと 完成度 仕上がり

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。